

肉用鶏に発生した膵臓の消化管重複嚢胞

小笠原房恵 阿部増美 山内健治 金子和華子 清宮幸男[†]

(一社)岩手県獣医師会食鳥検査センター (〒020-0851 盛岡市向中野 5-28-27)

(2025 年 12 月 23 日受付・2026 年 3 月 12 日受理・2026 年 8 月 15 日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/8/79_e154/_article/-char/ja

要 約

膵臓の消化管重複嚢胞に罹患した 45 日齢の肉用鶏 1 例を病理学的に検索した。直径 30 mm の球状嚢胞が膵臓のほぼ中央部に密着し、密着領域の腹葉及び背葉を分離していた。嚢胞は単房性で、ほぼ平滑な内面を有し、内腔に淡白色粘液を満たしていた。嚢胞と膵管、総胆管または肝腸管との交通はなかった。病理組織学的に、嚢胞壁は腸粘膜上皮に類似する内張り上皮、固有層、平滑筋層及び被膜により構成されていた。嚢胞に密着した膵臓の一部領域において、膵腺房腔の拡張を伴い膵細胞が変性し、間質の囲管性領域にリンパ球が浸潤していた。膵臓が嚢胞を囲む位置関係から、嚢胞形成に関わる胎生期の異常が、膵臓原基が現れる前に開始したと推察された。本症例は鶏に発生した膵臓の消化管重複嚢胞の初報告である。——キーワード：肉用鶏、消化管重複嚢胞、膵臓。

----- 日獣会誌 79, e154～e157 (2026)